

一般社団法人日本生態学会

No.43

2017年9月

# ニュースレター

## [目次]

次々期会長および次期代議員選挙.....	1
第65回日本生態学会大会（札幌）案内2.....	2
ジェンダーサミット10参加報告.....	14
記事	
Ⅰ. 第19回生態学琵琶湖賞受賞者.....	16
Ⅱ. 書評依頼図書.....	16
Ⅲ. 寄贈図書.....	16
お知らせ	
1. 公募.....	16
書評.....	17
京都大学生態学研究センターニュース.....	19



# 一般社団法人日本生態学会 次々期会長および次期代議員選挙

2017年10月1日

会員各位

一般社団法人日本生態学会選挙管理委員会

定款第6条、第29条ならびに「一般社団法人日本生態学会役員・代議員選任規則」に従って、日本生態学会の次々期会長（理事兼代表理事）候補者と次期代議員の選挙を行います。ぜひ期間内に投票をよろしく願いいたします。

(1) 有権者：2017年8月1日の時点で会費を1年間分以上完納した本会の正会員

(2) 投票期間：2017年10月1日～2017年10月31日午後5時

(3) 投票の方法

※ 投票はウェブ上での電子投票となります。

1. 投票は右記 URL より行います。 <https://iap-jp.org/esj/vote/member/login>

2. 画面に表示される手順にしたがって、**2017年10月31日午後5時までに投票を完了**してください。

## 第 65 回日本生態学会大会（札幌）案内（第 2 報）

第 65 回日本生態学会大会（公式略称 ESJ65）は、大会実行委員会および大会企画委員会により、下記の要領で開催されます。

大会参加および講演・企画の申込は、大会申込サイトから行っていただきます。9 月末頃稼働の予定ですので、大会公式ホームページ（<http://www.esj.ne.jp/meeting/65/>）で随時最新情報をご確認ください。

### 大会実行委員会

第 65 回日本生態学会大会（ESJ65）実行委員会

大会会長：日浦勉（北海道大学）、大会実行委員長：工藤岳（北海道大学）

大会公式ホームページ <http://www.esj.ne.jp/meeting/65/>

本大会に関する問い合わせは、大会公式ホームページからリンクしている問い合わせページからお願いします（学会事務局にお問い合わせいただいても対応できません）。

### 日程・会場

日程：2018 年 3 月 14 日（水）～ 18 日（日）

会場：札幌コンベンションセンター（<http://www.sora-scc.jp/index.html>）

ESJ65 では、公開講演会、シンポジウム、フォーラム、一般講演（口頭発表・英語口頭発表・ポスター発表）、企画集会、自由集会、高校生ポスター発表、総会、授賞式・受賞講演会、懇親会を行います。主な日程は下記のとおりですが、申込状況によって変更されることがあります。詳細なスケジュールは、プログラムおよび大会公式ホームページでお知らせします。

3 月 14 日（水） 各種委員会、自由集会

3 月 15 日（木） シンポジウム、企画集会、自由集会、フォーラム、一般講演（口頭・ポスター）

3 月 16 日（金） シンポジウム、企画集会、フォーラム、一般講演（口頭・ポスター）、懇親会

3 月 17 日（土） 総会、授賞式・受賞講演会、自由集会、一般講演（ポスター）、高校生ポスター

3 月 18 日（日） 公開講演会、シンポジウム、企画集会、フォーラム

### 各種締切

- ・講演または企画のための新規入会・再入会

**非会員の入会申込・学会費入金** 2017 年 10 月 23 日（月）15:00

（入会手続き <http://www.esj.ne.jp/esj/Nyukai.html> を参照）

※オンライン入会ページより入会申し込みの後、お送りする会費振込先への入金を確認して会員番号と初期パスワードを郵送します。会員番号とパスワードは以下の集会および講演の申し込みに必要なです。

- ・講演者・企画者に関して

英語口頭発表賞仮登録 2017 年 10 月 1 日（日）23:59

企画集会申し込み 2017 年 10 月 31 日（火）17:00

自由集会申し込み 2017 年 10 月 31 日（火）17:00

一般講演申し込み 2017 年 10 月 31 日（火）17:00

講演要旨登録 2018 年 2 月 14 日（水）17:00

一般講演口頭発表用ファイルの登録 大会の数日前を予定

- ・高校生ポスター発表に関して

高校生ポスター発表申し込み 2017 年 10 月 18 日（水）23:59

高校生ポスター講演要旨登録 2018 年 2 月 13 日（火）23:59

※入会申込は随時受付ますが、10 月 23 日（月）15:00 以降の会費入金分については、企画集会・自由集会・一般講演申し込み締め切り（10 月 31 日（火））まで会員番号とパスワードの発行を停止します。

※スケジュールに変更の可能性がありますので、適宜、大会公式ホームページでご確認ください。

※すべての締切に関して、締切後の追加や修正等の依頼には、対応できません。

## 諸経費の金額と支払い方法

※学会費と大会参加費は納入先が異なります。

### 学会費

講演・企画を希望される場合は、締切までに2018年からの入会が必要です。入会申込後、2017年10月23日(月)15:00までに学会費をお支払いください(会費未納により会員停止された方の再入会を含みます)。

既会員が講演・企画をされる場合は、同期日までに2017年学会費入金が必要です。

※入金後の学会費返金・入会年の変更には応じられません。

入会申込はこちら：<http://www.esj.ne.jp/esj/Nyukai.html>

入会に関する問合せ先(大会に関する問合せには対応できません)

一般社団法人日本生態学会 会員業務窓口

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

Email: [esj-post@bunken.co.jp](mailto:esj-post@bunken.co.jp)

TEL: 03-5937-2721 FAX: 03-3368-2822

受付時間 平日 9:00～12:00、13:00～17:00(土日祝を除く)

### 大会参加費・懇親会費

#### ・大会参加費

2018年1月19日(金)まで

一般(会員・非会員とも) 11,000円

学生(会員・非会員とも) 5,000円

2018年2月9日(金)まで

一般(会員・非会員とも) 12,000円

学生(会員・非会員とも) 5,500円

大会当日

一般(会員・非会員とも) 13,000円

学生(会員・非会員とも) 6,000円

学部学生以下(会員・非会員とも学生証提示・当日受付に限り) 無料

ご注意：大会参加費の前納金額は、期日までに支払手続きを完了した場合に適用されます。支払い手続きは、大会申込サイトから行っていただきます(9月末頃稼働予定)。

#### ・懇親会費

2018年2月9日(金)まで

一般(会員・非会員とも) 8,000円

学生(会員・非会員とも) 4,000円

大会当日

一般(会員・非会員とも) 10,000円

学生(会員・非会員とも) 6,000円

※懇親会の当日受付は空きがある場合に限りしますので、なるべく事前申し込みをして下さい。

- ・日本生態学会の会員手続きにおいて「定収入のない若手会員」の参加費、懇親会費は「学生」として扱えるよう準備していますので、「定収入のない若手会員(2018年)」と認められた方はその旨を明記して大会参加申込をしてください。
- ・懇親会の目的は、日頃は接する機会が少ない研究者どうしが気楽な空気の中かで交流を図ることにあります。とりわけ学生には、異なる研究分野や機関の研究者・学生と出会い、研究の幅を広げる機会として、重要な役割を果たしてきました。今大会の懇親会でも、学生の会費を低めにしておりまして、一般・学生ともに多くの皆さまにご参加いただき、有意義で楽しい交流の場として懇親会をご活用いただければ幸いです。
- ・大会参加費については2018年1月31日(水)取消分まで、懇親会費については2018年2月9日(金)取消分まで全額を返金します(振込手数料等の経費は除く)。それ以降は返金できません。

## 参加・講演申込

- ・大会参加および講演・企画の申込は、大会申込サイトから行っていただきます。9月末頃稼働の予定ですので、大会公式ホームページ (<http://www.esj.ne.jp/meeting/65/>) で随時最新情報をご確認ください。
- ・すべての申込について、締切後の申込は一切受け付けられません。また、入力ミスは原則として訂正しない方針です。文字化けについても対応いたしませんので、十分ご注意ください。
- ・申込には、別ページの「参加・講演申込フローチャート」をご参照下さい。

### 一般講演（口頭・ポスター）

- ・講演者（主たる説明者）になれるのは日本生態学会正会員のみです。
- ・講演者は、締切までに、大会申込サイトから発表登録を行うとともに、大会参加費を納入してください。
- ・2018年2月14日（水）までに大会申込サイトから講演要旨（日本語 800文字 / 英語 200words 以内）を登録してください。

### シンポジウム講演

- ・シンポジウムの講演者は、会員番号と講演タイトルをあらかじめシンポジウム企画者に伝えて下さい。企画者がすべての講演をまとめて登録します。その他の手続きは、企画者からの指示に従って進めてください。
- ・大会企画委員会から認められた招聘・招待講演者を除き、申込・発表できるのは2017年10月23日（月）までに入会・会費納入をすませた正会員のみです。
- ・招聘・招待講演者以外は、大会申込サイトから大会参加費を納入してください。
- ・各講演者は、2018年2月14日（水）までに大会申込サイトから講演要旨（日本語 800文字 / 英語 200words 以内）を登録してください。

### 企画集会講演

- ・大会企画委員会から認められた非会員講演者を除き、申込・発表できるのは、2017年10月23日（月）までに入会・会費納入をすませた正会員のみです。
- ・企画集会の講演者は、会員番号と講演タイトルをシンポジウム企画者に伝えて下さい。企画者がすべての講演をまとめて登録します。その他の手続きは、企画者からの指示に従って進めてください。
- ・大会申込サイトから大会参加費を納入してください。
- ・非会員の講演予定者の方は、企画者からの指示に従って手続きを進めてください（大会参加費が必要です）。
- ・各講演者は、2018年2月14日（水）までに大会申込サイトから講演要旨（日本語 800文字 / 英語 200words 以内）を登録してください。

### 自由集会講演

- ・自由集会は学会員である集会企画者の責任によって行われ、非会員でも講演できます。また、自由集会のみに参加（講演を含む）する場合には大会参加費は不要です。

### 大会参加資格一覧

会員と非会員の大会参加資格は以下の通りです。非会員の資格は限られますので、この機会にぜひご入会ください。なお、講演の重複制限については、各集会および一般講演の詳細をご覧ください。

講演種別 \ 会員種別	正会員	非会員
一般講演（口頭・ポスター）	○	
シンポジウム・企画集会・自由集会の企画	○	
シンポジウム講演	○	○
シンポジウム・企画集会・自由集会のコメンテータ *1	○	○
企画集会講演	○	○ *2
自由集会講演	○	○

\*1 要旨を登録しないコメンテータを指します。要旨登録を行うコメンテータの資格は「講演」に準じます。

\*2 大会企画委員会・大会実行委員会が特別に認めた場合に限り、集会あたり1件まで可能です。

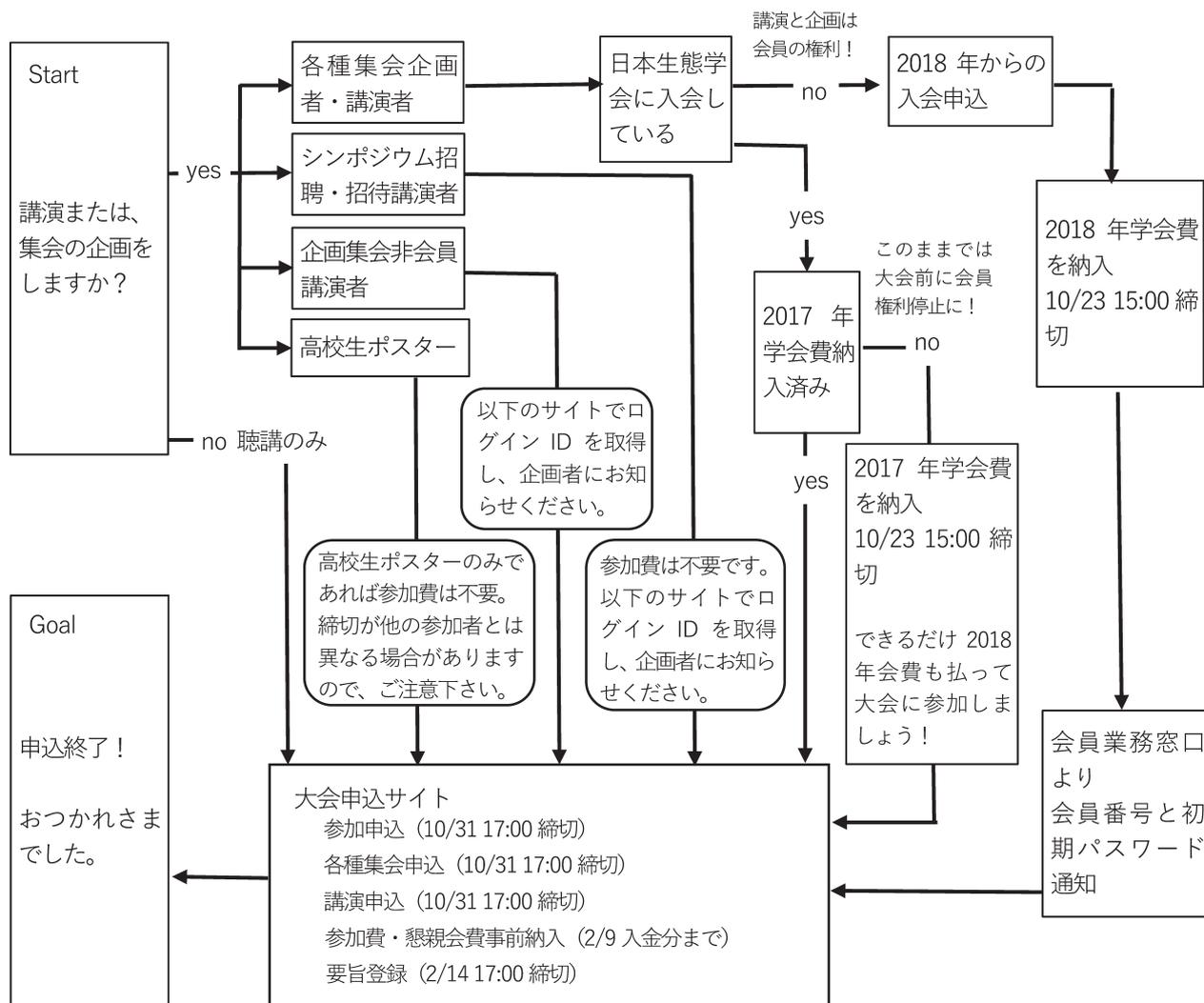
- ・非会員が発表・企画を希望される場合は、2017年10月23日（月）までに2018年の入会を申し込むとともに、2018年の学会費を納入して下さい（会費滞納による退会者の再入会の場合も同様です）。
- ・高校生ポスター発表会については、高校生ポスター発表会・「みんなのジュニア生態学」の詳細をご覧ください。

### 聴衆としての大会公式行事への参加

- ・非会員の方でも、大会参加費をお支払いいただければ、聴衆として参加できます。
- ・会員・非会員ともに、大会申込サイト（9月末頃稼働）から大会参加申込を行い、大会参加費を納入してください。当日参加も可能です。
- ・大学の学部学生以下（中・高校生を含む）の大会参加費は、聴衆としての参加の場合、無料です（事前申込は行いませんので、当日大会の受付に学生証提示の上お申し出下さい）。また、高校生ポスター発表会での発表も無料です。ただし、その他の一般講演などで発表する場合は、大会参加費の支払いを含む通常の手続きが必要です。

### 参加・講演申込フローチャート

- ※自由集会のみの講演者・聴講者は、会員、非会員にかかわらず、参加・講演申込は不要です。
- ※フォーラム講演者の講演申し込みは不要です。他の催しに参加しないのであれば、参加申込も不要です。
- ※シンポジウム非会員講演者（招聘・招待講演者）は懇親会参加申込を以下のサイトから行って下さい。懇親会費についてはシンポジウム企画者にお問い合わせ下さい。



## 名札の事前郵送

- ・当日受付の混雑解消のため、2018年2月9日（金）までに大会参加費を振り込まれた方には、大会申込サイトで登録した住所（日本国内の場合のみ）に名札などを郵送します。当日ご持参の上、直接、発表会場にお入りください。なお、大会申込サイトの登録住所が海外になっている方には、当日受付でお渡しします。
- ・名札をお忘れになった場合は、当日受付にお申し出ください。
- ・大会参加費を振り込んだにも関わらず、3月8日（木）までに名札が届かない場合は、大会ホームページの問い合わせページからお問い合わせください。

## 大会プログラム

- ・大会プログラムは、2018年1月頃に大会公式ホームページで公開され、どなたでもご覧になれます。
- ・大会プログラムの冊子は、2018年2月頃に国内の住所を登録されている日本生態学会の全ての会員に郵送されます（学会費未納の場合は除く）。プログラムの郵送を希望される会員は、必ず2017年内に2018年の学会費を納入してください。なお、**会員登録住所が海外になっている会員には、当日受付でお渡しします。**
- ・プログラム冊子は、当日受付にて1冊500円で販売します。非会員で冊子が必要な方は、お求めください。

## 講演要旨集

- ・講演要旨集は、HTML版で作成し公開しますが、冊子体とPDF版は作成しません。
- ・HTML版講演要旨集は、2月中に大会公式ホームページ（<http://www.esj.ne.jp/meeting/65/>）から閲覧できる予定です。また、大会のすべての講演要旨は学会サイト（<http://www.esj.ne.jp/meeting/abst/index.html>）からZIP形式の圧縮ファイルで入手でき、ネット上と同じく、閲覧および日程表、講演者やキーワードの検索が可能です。

## 各種集会の企画提案

- ・シンポジウムの企画提案はすでに締め切られており、フォーラムについては委員会代表者に直接ご連絡します。
- ・企画集会、自由集会については、「企画集会と自由集会」をお読みの上、企画をご提案ください。
- ・**企画提案時の概要（2017年10月31日（火）締め切り）がそのままプログラム・要旨集に掲載されます。また、差し替えには一切応じられませんので、ご了承ください。**

## 企画集会と自由集会

- ・下記の要領で企画集会と自由集회를募集します。趣旨をご理解のうえ、奮ってお申込下さい。
- ・企画集会・自由集会ともに、企画者は日本生態学会正会員である必要があります。企画集会、自由集会とも開催時間は約2時間の予定です。いずれの集会についても、大会企画委員会は内容に関与しませんが、概要などに個人および団体を誹謗中傷する内容などを含むと判断されるものについては、その限りではありません。

### 企画集会

- ・企画集会の個別の講演の要旨は、講演要旨集に掲載されます。全体の趣旨説明と概要もプログラムと講演要旨集に掲載されます。
- ・企画集会の企画者・講演者はシンポジウム及び他の企画集会の企画者・講演者になることはできません。
- ・企画集会の企画者・講演者は一般講演（口頭発表、ポスター発表とも）の講演者にもなれません。
- ・企画集会での講演者（主たる説明者）は原則、日本生態学会会員に限定されます。非会員による講演は特に事情がある場合に限り、**企画あたり1件まで認められます。ただし、同一の非会員が2年連続企画集会で講演することは認められません。また、非会員の講演者に対する大会参加費の免除は行いません。**
- ・要旨登録を行う「趣旨説明」や「コメント」は1講演とみなされ、その応募資格や重複制限は「講演」に準じます。要旨登録を伴わない趣旨説明やコメントは講演には数えません。
- ・限られた会場を平等に分け合って使用するため、企画集会はできるだけ3人以上の講演者で構成して下さい。

### 自由集会

- ・自由集会は、新しい分野の立ち上げを助け、生態学の枠組みからはみ出す話題についても自由に議論できる場として、生態学会が伝統的に重視してきた集会です。しかしあくまでも関連集会であって、大会の正式行事ではありませんので、自由集会のみの参加者は大会参加者とはみなされません。
- ・自由集会では、**集会概要と各講演のタイトルのみがプログラムと講演要旨集に掲載され、個別の講演要旨は掲載されません。**
- ・一般講演、シンポジウムなどとの重複発表は認められますが、**原則として日程の調整は行いません。**
- ・大会の正式行事ではありませんので、会場は集会主催者が責任をもって管理して下さい。

- ・自由集会の時間枠は、大会初日の各種委員会や代議員会と並行した時間帯等に設定される可能性が高くなっています。これらの委員を企画・講演者・コメンテータ等を含む自由集会についても、原則として開催時間の調整は行いません。

### 応募要領

- ・企画集会または自由集会の開催を希望される方は、**2017年10月31日（火）17:00**までに大会申込サイトから集会の提案・概要登録を行ってください。この際、講演者（主たる説明者及び共同発表者）と講演タイトルも併せて登録します。
- ・企画集会の提案を登録する際、集会企画者と各講演の主たる説明者全員の会員番号が必要となります（非会員の講演者の場合はログインID）。また、**企画者とすべての講演者が、大会申込サイト上で申込者情報の登録をあらかじめ済ませておく必要がありますので、早めのご準備をお願いいたします。**会員番号は、マイページの会員検索機能によっても調べることができます（同姓同名にご注意ください）。
- ・**企画提案時の概要がそのままプログラム・要旨集に載ります。差し替えには一切応じられませんので、ご了承ください。**

### 企画集会で非会員の講演を希望する場合

- ・企画者は、集会の提案・概要登録の際に、非会員講演者の氏名と講演を必要とする理由を記入して下さい。
- ・非会員の講演予定者には、**あらかじめ大会申込サイトからログインIDを取得するよう依頼してください。**ログインIDは企画提案の際に必要です。

### 企画集会と自由集会の採否について

- ・企画集会は、自由集会に優先して採択されます。提案された集会（企画集会・自由集会）の数が会場の収容可能数を上回る場合には、全部の自由集会の開催を取りやめても会場が足りない場合にのみ抽選を行い、企画集会の採否を決定します。
- ・自由集会の提案数が会場の収容可能数を上回る場合には、**同一会員が重複して複数の集会（自由集会・企画集会）の企画者となっている自由集会を不採択とします。**次に、シンポジウム企画者による自由集会を不採択とします。それでも数が多い場合には、抽選で自由集会の採否を決定します。
- ・限られた場所と時間を分け合って使うため、シンポジウムおよび企画集会の企画者・講演者は自由集会の企画を可能なかぎりご遠慮下さい。2つ以上の自由集会の企画・講演もご遠慮下さい。
- ・開催の可否については、11月中旬頃までにメールでご連絡します。

### フォーラム

フォーラムとは、学会の各種委員会が企画し、生態学会の運営や学会が取り組んでいる生態学に関連する課題について広く会員の意見を募り、会員相互の情報共有を促すとともに、広範な議論により学会内の合意を形成することを目指すものです。フォーラムの企画やフォーラムでの話題提供は、重複講演制限の対象となりません。

大会シンポジウム・企画集会・自由集会の違いは以下の通りです。

	シンポジウム	企画集会	自由集会
位置づけ	大会の核となる集会。大会の正式行事。	シンポジウムに次いで核となる集会。大会の正式行事。	様々な話題を自由に議論できる場。大会の正式行事ではありません。
開催時間	3 時間	2 時間	2 時間
開催の優先度	最優先されます。	シンポジウムの次に優先されず（自由集会の開催を全て取りやめても会場が足りない場合のみ、抽選で採否を決定します）。	優先されません（会場が足りない場合は抽選で採否を決定します）。
日程・時間	最優先されます（聴衆の集まりやすい日時に割り当てられます）。	シンポジウムの次に優先されず。	優先されません。
企画運営段階での企画委員会の関与	関与します。企画委員がコーディネータとして企画運営を支援します。内容の重複がみられる場合、複数のシンポジウムの合体を勧めることがあります。	特定の個人や団体を誹謗中傷する内容がないかだけを審査します。	特定の個人や団体を誹謗中傷する内容がないかだけを審査します。
企画者の資格	正会員	正会員	正会員
非会員による講演	奨励します（審査の上、招待講演者として参加費を免除します）。	集会あたり 1 件まで可（同一非会員の 2 年連続は不可）。大会参加費を支払う必要があります。	認められます（自由集会での非会員講演者が大会の他行事に参加する場合には、大会参加費を支払う必要があります）。
海外からの招聘講演者に対する学会からの旅費支給	大会全体で最大 4 名程度認められます。	なし。	なし。
一般講演との重複発表	不可	不可	可
他集会との重複発表	自由集会・フォーラムのみ可能。	自由集会・フォーラムのみ可能。	全て可能。
提案締切日	8/31（木）	10/31（火）	10/31（火）
概要登録 / 集会の概要及び講演者（主たる発表者及び共同発表者）と発表タイトルの登録締切日	10/31（火）	10/31（火）	10/31（火）
プログラムおよび要旨集への掲載内容	集会概要が掲載されます。要旨集には各講演の要旨も掲載されます。	集会概要が掲載されます。要旨集には各講演の要旨も掲載されます。	集会概要のみ掲載されます。

## 一般講演

- ・一般講演には口頭発表とポスター発表があります。申込時に希望（口頭発表かポスター発表）をお聞きしますが、会場の都合でご希望に沿えない場合もあります。
- ・口頭発表には、英語口頭発表賞の審査対象者を含めた英語セッションと通常のセッションがあります。通常のセッションにおいて英語で発表することも可能です。
- ・海外からの招待者や留学生など、日本語を解さない参加者との交流のためにも、日本語の発表の場合でも一部英語併記を推奨します。
- ・発表内容に応じて会場・時間の割り振りやポスター賞のグループ分けを行うため、発表申込時に希望分野を選んでいただきます。一般講演申込のフォームに選択可能な分野一覧が示されますので、第三希望までお選び下さい。以下は発表申込のときに示される発表分野（候補）の一覧です。

群落／植物個体群／植物生理生態／植物繁殖／植物生活史／菌類・微生物／景観／遷移・更新／動物と植物の相互関係／進化／生物多様性／数理／動物群集／動物繁殖／動物個体群／動物生活史／行動／保全／生態系管理／外来種／物質循環／生態学教育・普及

- ・英語口頭発表賞に事前申し込みされた方も含め英語セッションでの発表を希望される方については、企画委員会が発表内容に応じた分野分けを行います。

### 注意：

- ・講演者（主たる説明者）は日本生態学会会員に限ります（共同発表者は会員である必要はありません）。
- ・一人で二つ以上の講演の演者になることはできません（共同発表者になることは差し支えありません）。
- ・さらに、シンポジウムの企画者・講演者、企画集会の企画者・講演者は一般講演は行えません（口頭・ポスターとも）。
- ・これらの制限は、いずれも限られた場所と時間を分け合って使うための措置ですので、ご理解ください。

## 口頭発表の方法

- ・口頭発表は、原則として、会場備え付けの機器を使用したマイクロソフト・パワーポイントあるいはPDFによる発表とします（持ち込みのコンピューターは使用できません）。発表用ファイルの登録締め切りは大会開始の数日前となる予定です。
- ・ファイルの様式や容量を含め詳細は大会ホームページで追ってご案内します。
- ・発表用ファイルを使用せず、印刷物を配布して発表することもできますが、十分な部数の配布物を発表者側で準備して頂きます。また、ファイル登録締め切りまでに、発表用ファイルを使用しない旨、大会ホームページの問い合わせページから申し出てください。

## ポスター発表の方法

- ・ポスターボードは縦長（90 cm×210 cm）のものを使用する予定です。ポスター発表は、大会期間中に3日に分けて行い、最大約1000件のポスター発表を収容できる予定です。ポスター発表の申込数が収容可能数を超えた場合は、一部の方に、口頭発表への変更をお願いすることがあります。
- ・海外からの招待者や留学生など、日本語を解さない参加者との交流のためにも、英語での発表や、日本語の発表の場合でも、一部英語を併記したり、英語版の別刷りを用意したりすることを推奨します。
- ・ポスターを貼るための画鋏は持参して下さい。例年、会場周辺の店舗では品薄になりますので、ご注意下さい。

## ポスター賞

若手研究者の研究活動を奨励するために、優秀なポスター発表に賞を贈ります。応募資格については、下記をご参照ください。ポスター発表に関する詳細は大会ホームページにも掲載しますので、ポスターを準備するときの参考にしてください。

### ポスター賞応募資格について

本大会では、主たる発表者のポスター賞応募資格について以下の条件を設けます。

1. 一般講演の申込締め切り期限（2017年10月31日）の時点で博士号未取得の会員（学部学生、大学院生、研究生など）とします。
2. 過去の日本生態学会大会ポスター賞「最優秀賞」または「優秀賞」を受賞した者は、上記の条件を満たしていても応募できないものとします。過去の日本生態学会大会はEAFESと合同で運営された大会を含みます。

### ポスター賞審査の要点

選考上重視されるポイントには以下のようなものがあります。ポスター賞応募者は、これらの点に十分考慮してポスター作成をお願いします。

#### (A) ポスターの情報伝達能力

ポスター発表では、研究内容がわかりやすく表示されているかが重要です。例えば、(1) 良いタイトル、(2) わかりやすい要旨、(3) 視線を引きつける工夫、(4) 短時間でおおまかな内容が伝えられる工夫などが必要でしょう。そのためには、字・図表が遠くからでも判読できる、情報過多でない、説明なしでも要点が理解できることなどが重要です。

#### (B) 研究の質

(1) 新規性・独創性、(2) データの質・量、(3) 解析方法の妥当性、(4) 議論・結論の妥当性について審査されます。

- ・なお、過去に審査対象であった「発表技術」は、審査対象に含まれません。優れたポスターは読んだだけでその意義を理解できると考えられるためです。また、ポスター賞の応募者が多いため、審査に要する負担が著しく高まっていることも理由の一つです。ただし、ポスターを見ただけでは評価しにくい項目については、審査員が発表を聴き質問して評価することがあります。
- ・また、本学会では国際交流に力を入れて取り組んでいます。このため、日本語を理解しない研究者に対して配慮がなされているかも重視します。審査の際には使用言語に関わらずポスターの内容についてのみ評価しますが、審査の結果同票だったポスターについては英語による理解が可能なポスターの順位を繰り上げます。英語による理解が可能なポスターとは、少なくとも、タイトル、イントロおよび結論が英語併記される等して、英語を読むだけで研究の概要を理解できる場合、あるいは英語の別刷りが用意されている場合に該当します。

## 高校生ポスター発表会・「みんなのジュニア生態学」

高校生ポスター発表会・「みんなのジュニア生態学」は、生態学の社会への普及のため、日本生態学会によるアウトリーチ活動の一環として企画します。大会会期中に高校生（中学生も歓迎です）にポスター発表をしていただき、生態学に関連する諸分野の研究者や学生との交流を通して、生態学全般への関心をもっていただくのが本企画のねらいです。生き物の生態や環境に関わる生物学の内容であれば、どのような分野や題材の発表でも大歓迎です。なお、高校生ポスター発表会での発表は、大会参加費は不要（無料）です。

「みんなのジュニア生態学講座—高校生と研究者の交流会」も今年で4年目を迎えます。現在活躍中の生態学者の高校生や大学生の頃や現在の研究に至った経緯などを話してもらい、高校生に研究者を身近に感じてもらう交流会を行います。詳細は随時、大会公式ホームページなどでお知らせします。

### 要項

【日時】 2018年3月17日（土）

開場：9:00（到着したら受付を済ませてポスターを貼り出してください）

発表コアタイム（発表・審査）：調整中

みんなのジュニア生態学講座（高校生と研究者の交流会）：時刻は調整中（午後から90分程度の予定）

成績発表・表彰式：ジュニア生態学講座終了後30分程度

【会場】 札幌コンベンションセンター

ポスター発表：P会場（大ホール）、一般ポスター発表と併設

交流会・表彰式：現在調整中

【参加費】 無料。発表者（人数に制限なし）および引率者は、大会参加費が免除されます。

【発表資格】 原則として、高等学校または高等学校に相当する教育機関に在籍する生徒であること。国籍は問いません。

【発表内容】 生態や環境に関わる生物学の内容であれば、どのような分野や題材の発表でも受け付けます。既に他の学会等で発表された研究の場合、そこからどのように発展したのかを含め、研究の集大成・経過報告としてご発表ください。

【発表数】 本大会においては、1校あたりの発表数は最大4件までとします。ただし、発表の応募総数が50件を超えた場合は、発表件数の多い高校を対象に、発表数の調整をお願いすることがあります。

【発表方法】 本大会の指定するパネルサイズ（横90cm×縦210cmの予定）に納まるポスターをご準備ください。当日、9:00にはポスターを貼ることができます。発表者（複数可）は、発表コアタイムにポスターの説明を口頭で行ってください。コアタイムは決定後申込者にお知らせします。

【審査員】 ポスター1件につき複数名の審査員が配置され、質問やコメント、アドバイスをします。

【ポスター賞】 選考委員会が内容を評価し、発表されたポスターは最優秀賞、優秀賞などとして表彰します。

【みんなのジュニア生態学講座—高校生と研究者の交流会】 日本生態学会で現在大活躍中の研究者3名に、ご自身の研究内容だけでなく、生態学の研究を目指したきっかけや中学～高校の様子を語って頂きます。

- ・鈴木俊貴（京大大学生態学研究センター）「文法を操る鳥類の発見」
- ・金尾滋史（滋賀県立琵琶湖博物館）「田んぼの魚を追いかけて」
- ・川口（木村）幹子（一般社団法人MIT）「ヤマネコ「も」住める地域を作ろう」

### 申込み手順

- ・これまで電子メールで受け付けていた発表申込を、前大会からは大会申込サイトからオンラインで行っています。発表を希望する高校は、大会公式ホームページで随時最新情報をご確認ください。9月末頃に受け付けを開始し、2017年10月18日（水）23:59を締切とする予定です。なお発表希望申込数が非常に多い場合には、申込先着順で打ち切る可能性もありますので、早めの申込をよろしくお願いいたします。
- ・申込者は顧問の教員または保護者とします。必ずしも、大会当日に生徒を引率する方でもかまいませんが、要旨登録などの諸手続きに責任を負っていただける方にしてください。
- ・発表内容の要旨（日本語で800字以内）は、2018年2月13日（火）23:59までに同じくオンラインシステムから登録していただきます。
- ・第65回日本生態学会札幌大会の高校生ポスター発表に係る派遣依頼文書は担当者より2月中旬までにメール等で送付予定です。定められた様式がある場合には別途お問い合わせください。

【注意】 申込や要旨登録の不備に大会企画委員会高校生ポスター部会が対応するため、**高校生ポスターの申込の締め切りは一般講演よりも早めになっております**。くれぐれもご注意ください。なお、申込内容や要旨の修正の要望が例年多数寄せられます。登録段階で以後の修正がないようにご配慮をお願いします。これらの修正は、一般講演の締め切り後は、いかなる理由があろうとも対応できませんので、あらかじめご承知願います。

## お問い合わせ先

大会企画委員会・高校生ポスター担当 水澤 玲子

〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地

福島大学人間発達文化学類

E-mail: mizusawa@educ.fukushima-u.ac.jp、hs\_poster@mail.esj.ne.jp&br; メールでのお問い合わせの際は上記2つのアドレスに同時にお送り下さい。

## 英語口頭発表賞

本大会では、第5回英語口頭発表賞を実施します。英語口頭発表賞（EPA）への応募希望者はESJ65での講演登録の前の2017年10月1日までにEPAへの仮登録を行うことが必要です。詳しくはホームページ (<https://sites.google.com/site/esj65engpresenaward/>) を御覧ください。また、お近くで興味のありそうな方にも、ぜひこの情報をお伝えしてください。

### 賞の目的

英語口頭発表の設立目的は、大会における英語による研究発表を振興し、留学生や国外からの参加者との議論の場をより多く作ることです。同時に、特に若手研究者のコミュニケーション能力と国際的情報発信力を高める機会を増やしたいと考えています。本賞は英語の流暢さなどの言語能力を競うものではありません。応募者には発表の学問的内容と発表技術や姿勢を競っていただきます。

### 応募資格および方法

- ・日本生態学会の会員で、学生（学部、修士課程、博士課程）または2018年3月までで学位取得後5年以内の若手研究者であること。なお、育児/介護休暇はこの5年間に含まれません。過去の英語口頭発表賞の受賞者も応募可能です。
- ・発表は質疑応答3分間を含む15分間です。口頭説明の言語は英語ですが、発表スライドは英語または和英併記とします。
- ・受賞者は日本生態学会から賞状とSpringerより副賞として本が贈呈されます。
- ・応募者は日本生態学会の本登録の1ヶ月前（2017年10月1日）までに、英語口頭発表賞部会（[eigo@mail.esj.ne.jp](mailto:eigo@mail.esj.ne.jp)）にて発表に関する以下の情報（暫定的なもので構いません）を連絡し、仮登録を行う必要があります。1. タイトル、2. 著者全員の氏名と所属、3. 日本生態学会の会員か否か、4. 以下のリストから選んだキーワード3つ

提出された情報はプログラム編成に用いられます。応募者より仮登録のE-mailが届き次第、部会担当者より受取確認のE-mailを返信いたします。1週間以上たっても連絡がこない場合は再度ご連絡ください。

キーワードリスト：

animal community; animal-plant interaction; animal population; animal reproduction; behavioral ecology; biodiversity; conservation; ecosystem management; education and popularization of ecology; evolution; invasive species; landscape ecology; life history of plants; life history of animals; mathematical ecology; mycological ecology; nutrient cycling; paleoecology; plant community; plant ecophysiology; plant population; plant reproduction; pollination; seed dispersal; socioecology; succession; urban community.

### 応募日程

- ・2017年10月1日23:59（日本時間）まで：上記の通り、仮登録を行って下さい。締めきり後に、英語口頭発表賞部会が暫定的なプログラム編成を行い、応募者に通知します。
- ・2017年10月23日15:00（日本時間）まで：日本生態学会の会員でない場合は、入会手続き（会費納入も含む）を行って下さい。手続きには時間がかかる場合があるため、英語口頭発表賞部会からの仮登録受理の返信が届き次第、すぐに入会手続きを開始することを勧めます。詳しい情報は本大会のウェブページを参照して下さい（<https://www.esj.ne.jp/esj/Nyukai.html>）。
- ・2017年10月31日17:00（日本時間）まで：英語口頭発表賞部会からのガイダンスにしたがい、第65回日本生態学会の大会参加および口頭発表の申し込みを行ってください
- ・2018年2月14日（水）17:00（日本時間）まで：発表要旨の登録
- ・本大会の数日前まで：発表スライドのアップロード

## 審査基準

- ・各部門に数人の審査員が割り当てられます。
- ・すべての発表は研究の質（50%）と発表の質（50%）を審査され、採点されます。
- ・各部門ごとに得点を集計し、原則としてそれぞれの部門の1位と2位の発表者に最優秀賞と優秀賞が与えられます。

## 英語口頭発表賞のポリシー

- ・すべての発表は英語で行います。
- ・英語の言語技術（流暢さなど）ではなく、科学コミュニケーションを英語で行うという姿勢を重要視します。
- ・発表者、聴衆、審査員すべてが、和気あいあいとした講演会場になるように努力し、英語での科学コミュニケーションの促進をはかります。

## English Presentation Award

The 5th English Presentation Award (EPA) will be organized in the 65th Annual Meeting of the Ecological Society of Japan (ESJ65) at Sapporo in March 2018. Title and abstract submission to EPA is open until October 1, 2017! Please see our website (<https://sites.google.com/site/esj65engpresenawarden/home>) for more details. We would appreciate you providing this information to those who are potentially interested in the EPA.

## Aim of the award

The English Presentation Award (EPA) aims to promote English presentations in the ESJ annual meetings and to give all participants more opportunities to share scientific ideas with international students and visiting researchers in Japan. At the same time, the EPA working group gives students and early career members an opportunity to gain experience in scientific communication, particularly experience that will be useful in international meetings.

## Eligibility and application

- ・Eligibility is limited to Ecological Society of Japan (ESJ) members who are students (undergraduates, graduate students and PhD candidates) or early career researchers who have received PhD, no more than 5 years before March 2018. Work weeks of parental leave or family leave are not included in this 5-year limitation. Past EPA winners are also eligible to submit their applications.
- ・All participants need to prepare their presentation with a time slot of 15 minutes, which includes approximately 3 minutes for questions and discussions.
- ・The winner will receive a certificate from ESJ and a book will be awarded as a supplemental gift by Springer.
- ・All those who wish to be considered for the EPA must contact the EPA working group ([eigo@mail.esj.ne.jp](mailto:eigo@mail.esj.ne.jp)) at least 1 month prior to the ESJ official registration (October 1, 2017) to provide provisional information of your presentation as follows: 1. Title, 2. Names and affiliations of authors, 3. Whether you are an ESJ member or not (Yes or No), 4. Three key words selected from the list below

The EPA working group will arrange programs based on the submitted information. We will send a confirmation e-mail for each submission. If there is no response within a week, please contact again.

## Keywords list:

animal community; animal-plant interaction; animal population; animal reproduction; behavioral ecology; biodiversity; conservation; ecosystem management; education and popularization of ecology; evolution; invasive species; landscape ecology; life history of plants; life history of animals; mathematical ecology; mycological ecology; nutrient cycling; paleoecology; plant community; plant ecophysiology; plant population; plant reproduction; pollination; seed dispersal; socioecology; succession; urban community.

## Timeline

- ・By 23:59 (JST) October 1, 2017: Contact the EPA working group ([eigo@mail.esj.ne.jp](mailto:eigo@mail.esj.ne.jp)) to provide provisional information of your presentation, as above. After this pre-registration is closed, we will arrange and inform applicants of tentative programs.
- ・By 15:00 (JST) October 23, 2017: If you are not an ESJ member, please note that it takes a few weeks to complete your ESJ membership application. You need an ESJ membership ID when you register for the meeting. So, we strongly recommend you to complete your ESJ membership registration soon after your application to EPA is accepted. Please

see the official website of ESJ (<https://www.esj.ne.jp/esj/English/join.html>) for more information.

- ・ By 17:00 (JST) October 31, 2017: Deadline of ESJ65 registration and application for oral presentations. Please register following the guidance of the EPA working group.
- ・ By 17:00 (JST) February 14, 2018: Deadline of abstract submissions
- ・ Few days before the meeting (Date to be determined): Deadline of presentation file submissions

#### Judgement criteria

- ・ A few judges are assigned in each session.
- ・ All presentations are judged and scored based on the quality of research (50%) and quality of presentation (50%).
- ・ Best award and excellent award will be awarded to first and second place finishers of each session.

#### EPA Policy

- ・ All presentations must be in English.
- ・ Please note that we are more concerned with attitude towards science communication in English rather than English language skill.
- ・ We expect a friendly atmosphere in English sessions.

### 日本生態学会第21回公開講演会

極限環境に棲む生物は、ユニークな形態や生活様式を持ったものが多いですが、それは、厳しい環境を生きる上で効率的な生き方をしていることの現れです。しかし、その生態特性の意味については、一般にはよく理解されていません。また、極限環境では、生物活動は微妙な環境条件のバランスの上で成り立っており、気候変動など大きな環境変化に対して脆弱です。本講演会では、普段は目にする事のない様々な極限環境に暮らす生物の適応様式を一挙に紹介するとともに、それらに忍び寄る気候変動の脅威について紹介し、極限に棲む生物を科学することの魅力と重要性を社会へ伝えたいと考えています。

講演会タイトル：「極限に棲む生物の生き様—身近な生態系の成り立ちを知るヒント」

日時：2018年3月18日（日）13:00～15:00（予定）

会場：札幌コンベンションセンター 特別会議場 ([http://www.sora-scc.jp/guide/floor\\_detail/detail2.html](http://www.sora-scc.jp/guide/floor_detail/detail2.html))

講演者

佐々木雄大（横浜国大）、工藤岳（北海道大）、大園享司（同志社大）、渡辺佑基（極地研究所）、藤原義弘（海洋研究開発機構）

### 懇親会

懇親会は3月16日（金）に京王プラザホテルで行われます。参加申込と会費納入は大会申込サイトからお願いします。

### 託児室、ファミリー休憩室

2018年3月14日（水）～18日（日）の会期中、大会会場に託児室、ファミリー休憩室を設置する予定です。開設時間や利用方法（託児室については申込方法）などの詳細は、大会公式ホームページで追ってご案内します。

### エコカップ2018 札幌大会

大会サテライト企画として、親善フットサル大会エコカップ2018が大会終了翌日の3月19日（月）に開催されます。開催場所などの詳細は、ホームページにてお知らせします。<http://stellaria.lowtem.hokudai.ac.jp/ecocup2018/>

### 宿泊・交通案内

大会中の宿泊は各自での手配をお願いします。札幌駅周辺には多くの宿泊施設がありますが、大会期間中混雑する可能性もありますので、宿泊の予約は早めにされることをお勧めします。

### お問合せ

大会企画委員会では、大会運営についてのご意見・お問合せを随時受け付けています。大会公式ホームページにある問い合わせページからお寄せください。また「障害者差別解消法」に基づく配慮を行いますので、大会参加に際して、配慮を必要とされる方は問い合わせページからご相談下さい。

## ジェンダーサミット 10 参加報告

大西 勇・別宮有紀子（キャリア支援専門委員会）

ジェンダーサミットは、2011年に欧州委員会が中心となり発足したジェンダーに関する国際会議で、「性差を科学の重要な要因と捉え、研究とイノベーションの質の向上を目指す」ことを目的としている。これまでに欧州、米国、アフリカ、アジアなど世界各国で開催され、第10回目の今回は「Better Science and Innovation through Gender, Diversity and Inclusive Engagement」をメインテーマに東京で2017年5月25-26日の2日にわたり開催された（主催：科学技術振興機構）。日本生態学会はスポンサーとして協賛し、キャリア支援専門委員会から2人が参加した。ポスター発表では日本生態学会の概要や男女共同参画・キャリア支援活動について紹介した。

会議はそれぞれ6つのプレナリーセッション、パラレルセッションで構成され、各セッションでは「男女の（社会・文化的）性差」であるジェンダーの問題・課題について熱心な議論がおこなわれた。2日間にわたり23カ国から600人近くが参加し、その議論の成果は「東京宣言：架け橋（BRIDGE）」として発表・発信された（本文末尾に要約を掲載）。以下に2日間の会議の概要を報告する。

### 一日目（5月25日）

午前から午後にかけて、3つのプレナリーセッションが開催された。その中で特に印象的だったものは、浅川智恵子氏（IBMフェロー）と、山極寿一氏（京都大学総長）の講演だった。浅川氏は自身の視覚障害というハンデを乗り越え、数々の革新的な情報技術を開発してきた。視覚障害者のための最先端の認知支援ツールを紹介しながら、電話やキーボードなど障害者支援のために開発された技術が、今や社会全体に恩恵をもたらしていること、多様な人種、多様な経験や特性を持つ人が集まることで生じるギャップがイノベーションをもたらすこと、自分

の個性を強みにすることの重要性を熱く語っていた。

山極氏は、霊長類の進化や、大型類人猿と人類の共通点と相違点、そして人類が進化の過程で、ゴリラのような霊長類と同様に、集団や共同体で育児をしていたことを紹介し、「人間は元来、生物学的な親族関係がなくても子育てに関わることで集団内の絆を維持していた」と、現代社会を考える上で示唆に富む話があった。

その他、日本人女性エンジニアの草分け的存在である阿部玲子氏によるインドの地下鉄建設現場での奮闘記や、Daw Than Nwe氏によるミャンマーの女性教育の現状、Seng Mom氏によるカンボジアの農業教育における女性の現状についての講演、医学研究や社会科学において性差を考慮することの重要性や、社会的性差と生物学的性差の両方を考慮した研究例やデータベースに関する講演があった。

日本生態学会は男女平等で民主的・先進的な学会で、その居心地の良さについて忘れがちなのだが、世界には女性の地位が低く、社会進出や教育が遅れている国や地域がまだまだたくさんある。ジェンダーサミットは、国や人種の異なる人々が一同に会し、社会的性差について考え、異なる価値観・文化・能力をつなげ新たな力を生み出そうという限りなくポジティブなエネルギーに満ちている。アカデミズムの一端を担う日本生態学会として、このような社会的意義の高い国際会議のスポンサーとなることを決意した理事会と執行部に敬意を表しつつ、会員の皆様の貴重な会費を使わせていただき本サミットに参加できたことに感謝したい。 [別宮有紀子]

### 二日目（5月26日）

昨日に引き続き、性差からくる問題やその克服に関して、パラレルセッションやプレナリーセッションがおこなわれ、また、お昼の時間帯をコアとして、ポスター発



表がおこなわれた。

午前中は、二つパラレルセッションが設けられていた。私は、「STEM教育における男女の機会均等」というタイトルの方に出席した。歴史的、及び、未来へのパースペクティブにおいて、性差の平等性を考えるもので、それは、社会福祉の本質的な決定要因であるとともに、科学システムの社会的な持続可能性の問題として考えられているとのことであった。様々に革新していくことが大切で、世界中の社会が直面している多くの性差差別からくる課題を解決することができ、持続可能な社会経済発展を確実にすることとのこと。さらに、ゴリラ研究との比較から、人間の生活史をも調べ、男性と女性の行動を洞察することからくる論点を整理して話されていた。非常に示唆的であり、かつ、有益なお話が多く、個人的には、「人間より、ゴリラの方が幸福度が高い」んじゃないかと考えさせられた。細部はここでは書ききれない。講演の細部や講演者について、より深い興味のある方は、<http://www.gender-summit10.jp/jp/index.html> から、たどられるとよいと思う。

午後のプレナリーセッションは「科学の社会的責任」というテーマのセッションの後、2日間の会議を締めくくると「結論」のセッションがおこなわれた。そこでは、科学は伝統的には科学者が知のフロンティアを広げる過程であって、閉ざされたものであったが、現在では、より開かれた科学が求められており、社会との相互作用が非常に大事になってきているとの認識が示されていた。結論は、今回、報告があったいくつかのワーキンググループからのサマリーと今後の活動の展望が話されていた。細部に興味ある方は、やはり上記からたどられるとよいと思う。

なお、5月31日（水）に開催された内閣府主催「グローバルな視点から見た日本における女性のエンパワーメントの現状と課題及び第61回国連女性の地位委員会（CSW）等について聞く会」に参加した際、Gender Summit 10でもみた重要な論点が整理されていたので、参考のために紹介しておく。

性差差別の問題に取り組むと見えてくる5つの障壁

- (1) 男性が良いリーダーであるという固定観念
- (2) 女性は小さな差別の積み重ねによって決定的に出遅れる
- (3) 男性はポテンシャルを評価されるが、女性は実証された成果のみしか評価されない
- (4) 男性による、女性へのスポンサードはまだまだ不十分
- (5) 女性は、リーダーになる上で必要な経験を積むチャンスを与えられていない

これらの問題に対し、必要な取り組み方として、5つの解決策が提示されていた。

- (1) インクルーシブ・リーダーとして行動する
- (2) 言葉を慎重に選び、排他的にならないよう注意する

- (3) 自分自身を含む周囲の人々の間にあるステレオタイプには、果敢に挑戦する
- (4) 取り組みの中心に男性を巻き込む
- (5) 一人一人が自分のこととして行動する

これらの会議、シンポジウムに参加して強く感じたことは、「男女共同参画」は、敵対搾取的寄生の段階を通り過ぎ、相利的共生の段階に入っていて、（これは生態学的には当然だと思われるけど、）社会科学的にもそれが結局は長い目で見れば相利的であるばかりでなく、社会全体をも利する道であると証明・認識されつつあるということだった。 [大西 勇]

#### 付録：「東京宣言：架け橋（BRIDGE）」日本語要旨

1 ジェンダー平等は持続可能な社会と人々の幸福に不可欠な要素であり、科学、技術及びイノベーションが人々の生活をどれくらい良いものにできるか、その質を左右する。それは、男女間の機会均等に加え、ジェンダーの科学的理解とジェンダーの差違が科学技術の主要因と捉えられ分析されてこそ社会にイノベーションをもたらし得る。

2 ジェンダー平等は17あるSDGsすべての実践に組み込まれることか必要であり、科学技術イノベーションと共に歩むジェンダー平等は、国連の持続的な開発目標（SDGs）のそれぞれと結びつき、17すべての目標の実現を促す架け橋となる。

3 SDGsに掲げるジェンダー平等は、社会における多様性、とりわけ、女性や女子、男性や男子、民族や人種、文化等が果たす意味や役割を社会がどのように認識して定義しているか、その関係性を考慮して進める必要がある。それはGender Equality 2.0として、産業界を含むすべての関係者にとって自らが取り組む持続的課題のひとつとすべきである。

## 記 事

### I. 第19回生態学琵琶湖賞受賞者

森田健太郎 (国立研究開発法人水産研究・教育機構  
北海道区水産研究所)

Kenneth M. Y. Leung (The University of Hong Kong)

### II. 書評依頼図書 (2017年2月～2017年9月)

現在、下記の図書が書評依頼図書として学会事務局に届けられています。書評の執筆を希望される方には該当図書を差し上げます。ハガキ又はEメールで、ご所属・氏名・住所・書名を学会事務局 (office@mail.esj.ne.jp) までお知らせ下さい。なお、書評は1年以内に掲載されるようご準備下さい。

1. 嶋田正和・阿部真人著「Rで学ぶ統計学入門」(2017) 284pp. 東京化学同人 ISBN:978-4-8079-0859-2
2. Hamlyn G. Jones 著 久米篤・大政謙次監訳「植物と微気象(第3版)」(2017) 512pp. 森北出版株式会社 ISBN:978-4-627-26113-6
3. 山田文雄著「ウサギ学 隠れることと逃げることの生物学」(2017) 270pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-060199-3
4. 小見山章著「マングローブ林 変わりゆく海辺の森の生態系」(2017) 280pp. 京都大学学術出版会 ISBN:978-4-8140-00883
5. 菊地直樹著「「ほっとけない」からの自然再生学 コウノトリ野生復帰の現場」(2017) 324pp. 京都大学学術出版会 ISBN:978-4-8140-0082-1
6. 辻和希編集「生態学者・伊東嘉昭伝 もっとも基礎的なことがもっとも役に立つ」(2017) 432pp. 株式会社海游舎 ISBN:978-4-905930-10-5
7. 国立歴史民俗博物館 青木隆浩編「人と植物の文化史」(2017) 182pp. 古今書院 ISBN:978-7722-7143-1
8. 鳥取大学国際乾燥地研究教育機構 監修 小玉芳敬・永松大・高田健一編「鳥取砂丘学」(2017) 110pp. 古今書院 ISBN:978-4-7722-5296-6
9. 安田善憲著「森の日本文明史」(2017) 400pp. 古今書院 ISBN:978-4-7722-8117-1
10. 辻大和・中川尚史編「日本のサル 哺乳類学としてのニホンザル研究」(2017) 332pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-060233-4
11. 増田隆一著「哺乳類の生物地理学」(2017) 190pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-060252-5
12. 西田治文著「化石の植物学 時空を旅する自然史」(2017) 318pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-060251-8
13. 高橋清孝編著「よみがえる魚たち」(2017) 196pp. 恒星社厚生閣 ISBN:978-4-7699-1607-9
14. 難波成任著「創造する破壊者ファイトプラズマ 生命を繰る謎の細菌」(2017) 400pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-066139-3
15. 松井明著「ダム建設、水田整備と水生生物」(2017) 150pp. 東京図書出版 ISBN:978-4-86641-067-8

16. 林良嗣・榎原淳著「道路建設とステークホルダー合意形成の記録」(2017) 144 明石書店 ISBN:978-4-75034486-7
17. 山崎晃司著「ツキノワグマ すぐそこにいる野生動物」(2017) 278pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-063348-2
18. 梶光一・飯島勇人編「日本のシカ 増えすぎた個体群の科学と管理」(2017) 264pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-060234-1

### III. 寄贈図書

1. 「下中記念財団創立55周年記念表彰事業論文集」(2017) 112pp. 公益財団法人下中記念財団
2. 「東北のコウモリ 第2号」(2017) 36pp. 特定非営利活動法人コウモリの保護を考える会
3. 「うみうし通信 No.95」(2017) 12pp. 公益財団法人水産無脊椎動物研究所
4. 「東京大学大気海洋研究所要覧・年報 2017」(2017) 122pp. 東京大学大気海洋研究所

## お 知 ら せ

### 1. 公募

日本生態学会に寄せられた公募について、①対象、②助成又は賞などの内容、③応募締め切り、④申し込み・問い合わせ先をお知らせします。

- (1) 三井物産環境基金 2017年度 研究助成  
①「地球環境」「資源循環」「生態系・共生社会」「人間と社会のつながり」の解決に係る研究課題  
②1案件あたりの助成金額の上限は設定しません  
③2017年10月21日(土)(消印有効)  
④三井物産環境基金 事務局
- (2) 鹿島学術振興財団 2017年度 研究助成  
①「都市・居住環境の向上」「国土・資源の有効利用」「防災・危機管理の推進」「文化・自然環境の保全」の研究を行う研究者・研究グループ。  
②総額 約4,500万円(予定)  
③11月10日(金)  
④日本生態学会事務局(学会推薦が必要です)
- (3) 第56回(平成29年度)下中科学研究助成金  
①全国小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び高等専門学校の教員、並びに教育センターや教育委員会等において教育実務を行う者を対象とし、研究は個人であると共同であることを問いません。  
②総額900万円。1件当たり30万円。30件を予定します。  
③平成29年12月11日(当日消印有効)  
④公益財団法人下中記念財団事務局

## 書評

宮下直、瀧本岳、鈴木牧、佐野光彦著 (2017) 「生物多様性概論 自然のしくみと社会のしくみ」朝倉書店 (東京) 192pp. ISBN : 978-4-254-17164-8 本体価格 2,800 円+税

生物多様性の考え方や重要性については、既に様々な入門書・学術書が出版されており、誰でも学ぶことのできる時代になった。しかし、依然として生物多様性の認知度は高くない。内閣府の世論調査では、生物多様性という言葉が「聞いたこともない」と答えた人が52.4%もいる。生物多様性に広く関心を持ってもらうためには、生物多様性がいかに身近で、社会と強く結びついているか実感してもらうことが第一歩ではないだろうか。本書は、東京大学大学院の宮下直教授をはじめとする一流の研究者たちが、生物多様性とそれを取りまく社会のしくみを平易に解説してくれている。文系学生、行政担当者や民間人など、必ずしも自然科学に精通していない人も理解できることを目指した、数少ない良書である。目次は以下の通り。

- 第1章 生物多様性とは何か
- 第2章 生物多様性の生態学理論
- 第3章 生物多様性の進化プロセスとその保全
- 第4章 森林生態系の機能と保全
- 第5章 沿岸生態系とその保全
- 第6章 里山と生物多様性
- 第7章 生物多様性と社会

第1章は導入章であり、地球と生命の誕生から、いま生物多様性をとりまく危機がコンパクトにまとめられている。「生きている地球指数」など生物多様性の変化傾向を知るための最新の情報が盛り込まれており、初学者でなくても勉強になる。第2章は個体群、群集、生態系のふるまいを知るための生態学理論の紹介である。平易なモデルではあるが、数学の苦手な人には理解しきれない部分もあるかもしれない。それでも、「メソプレデターリリース」や「レジームシフト」などを通じて、理論研究が生物多様性の理解や保全管理の発展に欠かせないものであることを理解できるだろう。第3章は、進化と種分化についての紹介である。特に「進化プロセスを保全する」という発想には、目からウロコの人も多いのではないだろうか。

さて第4～6章では、三つの生態系（森林、沿岸、里山）を紹介している。これらの章は私たちの生活により身近な話なので、これらの章から読み進めるのも良いと思う。まず第4章は、森林生態系の成り立ちや生物間相互作用、さらに森林の生態系機能・サービスやそれを保全するための社会制度が詳しく解説されている。本章を読めば、日本が抱えている問題の深刻さが理解できる。とりわけ、木材・木質原料の輸入を通じた熱帯林の過剰利用と、国内の里山林の過少利用による生物多様性の減

少という皮肉な現状は、日本人として知っておかなければならないだろう。この問題を踏まえて、適切な管理を目指した森林の認証制度や林業技術について紹介されており、こうしたしくみの大切さを実感できる。

第5章は、沿岸生態系とその保全である。サンゴ礁、マングローブ域と砂浜海岸の三つに焦点をあて、人間活動が地球温暖化や外来魚などを介して生態系に深刻なダメージを与えている現状がよく理解できる。例えばサンゴ礁では、幾つかの理由によって大型藻場へのレジームシフトが起こり、いったん変化すると元に戻るものが困難であることなどが紹介されている。第2章の理論も読んでおくと、より一層理解が深まる。また砂浜海岸は、私たちにとても身近な環境である。特に人間活動などによって引き起こされる海岸浸食は、生物多様性の損失だけでなく、背後地の浸水を引き起こす可能性があることは、沿岸域に住む人であれば知っておくべきだろう。

第6章は、里山と生物多様性である。まず里山の定義、分布および生物多様性を支える仕組みが、最新の研究成果とともに説明されている。特に「景観の異質性」が果たす役割について、「生息地補完」や「生息地補償」など重要な概念を用いて上手く説明されている。また二次草地では、過去100年間で10分の1にまで面積が減少していること、一方で水田では農薬や圃場整備などの集約化が生物多様性を脅かしていることが詳しく解説されている。最後に里山の生態系サービスとして、ソバの結実率が（訪花昆虫の生息地である）周囲の森林面積に比例して高まる事例などが紹介されている。農業と生き物の関わりを知る好例であり、農業に多少とも関わりのある方に、ぜひ読んでいただきたい章である。

第7章は、生物多様性と社会の関わりである。愛知目標や生物多様性国家戦略にはじまり、「相補性解析」を利用した保護区の考え方、農業に対する直接支払制度などが上手くまとめられている。これまでの章を踏まえて読むことで、こうした社会のしくみの大切さが深く実感できるようになるだろう。そして最後に、生物多様性は人間の健康、アレルギー疾患の抑制や人格形成にまで関わっている可能性が、最新の研究によって示唆されている。これらの研究はまだ始まったばかりだが、自分自身も知らない話が多く、本当にわくわくしながら読むことができた。生物多様性が人間の福利にもたらす恩恵を、これだけ簡潔明瞭に示してくれた著書はないと思う。詳しくはぜひ本書を読んでいただき、少しでも多くの人に、生物多様性が私たちの暮らしに不可欠であることを実感してほしい。

(片山直樹 農研機構 農業環境変動研究センター)

水田拓 著 (2016) 「フィールドの生物学 23 「幻の鳥」オオトラツグミはキョローンと鳴く」東海大学出版会 220pp. ISBN:978-4-486-02118-6 定価 2,000 円(税別)

評者は鳥類の生態に特段の興味があるわけではないが、最近奄美大島の森林で植物生態の調査を始めたため、奄美大島について勉強できればと思い、本書を手にとっ

た。

奄美群島は沖縄諸島とともに、生物地理学上の「中琉球」を構成し、およそ170万年前に大陸から切り離された島となった。その後、今から100万年前頃に奄美群島と沖縄諸島が切り離された。このような地史を反映し、奄美群島と沖縄諸島には多くの共通種（亜種）が存在するとともに、どちらかにしか存在しない固有種（亜種）もある。哺乳類では、ケナガネズミとワタセジネズミが奄美・沖縄の両方に分布する中琉球の固有種（後者は固有亜種）であり、オリジネズミとアマミノクロウサギは奄美群島のみ固有種である。鳥類ではアマミヤマシギとルリカケスが奄美群島固有種で、ヤンバルクイナとノグチゲラが沖縄島の固有種である。本書の主題であるオオトラツグミは、日本本土を含むユーラシア大陸に広く分布するトラツグミの亜種で、奄美大島だけに分布する固有亜種である。オオトラツグミは、国の天然記念物であり、種の保存法指定「国内希少野生動植物種」でもある。本書の著者が奄美大島で研究を始めた時、オオトラツグミの生態はほとんど未知で、巢の観察記録もわずか3例しかなかったという。

トラツグミとオオトラツグミはその名のとおり、後者がやや大きいものの体形と羽色は同じだという（叶内拓哉ほか『日本の野鳥』山と溪谷社）。顕著に異なるのは鳴き声である。トラツグミは夜に「ヒョー」という単調な声で繰り返し鳴き、平安時代の人々はこれを「ぬえ」の鳴く声と考えたという。これに対し、オオトラツグミは早朝の森で「非常に美しい声でさえずる」（本書より引用）。本書のタイトルはこの鳴き声に由来する。

本書で紹介される研究のうち、この鳴き声を利用した大規模長期研究が印象的である。1999年以降毎年3月下旬の日曜日に全国から100人以上のボランティアが集まり、朝5時半からの1時間、奄美大島の山奥の林道を1kmおきに一齐に歩き、オオトラツグミのさえずりを記録する。そういえば生態学会事務局の〇〇さんが鹿児島？大会の後、この調査に参加されると言っていたような……。このようにして20年近い長期にわたる個体数の変動が明らかにされ、近年「幻の鳥」オオトラツグミの個体数が増加していることが示された。統計解析により、林齢が高く開けた環境が小さいほどオオトラツグミが多いこと、また、2011年まではマンゲースの密度が高いとオオトラツグミが少なかったことがわかった。かつての森林伐採とマンゲースによる捕食がオオトラツグミを減少させ、近年の森林伐採の減少とマンゲース防除事業の進展がオオトラツグミを増加させたと考えられる。

本書の著者はボスドクまではマダガスカルなどでサンコウチョウ属鳥類の生態を研究した後、2006年4月から環境省奄美野生生物センターにおいてオオトラツグミの保護増殖事業担当の「自然保護専門員（アクティブ・レンジャー）」として勤務を始めた。本書からの引用によれば、「いわゆる派遣職員」で、「研究者の中の「落ちこぼれ」の一人」であり、おそらく任期付きの職を更新するという勤務様態のため、「将来の不安はつねにある」という。そのような中で、業務時間外や休日に、また、

土曜は可愛い盛りの息子を保育所に預けながら本書を書き、また、ほぼ時を同じくして編著書『奄美群島の自然史学』（東海大学出版会）を出版しており、頭がさがる。ローカルな話題になるが、地元紙（南日本新聞）でも今年から不定期でエッセイを連載しており、おもしろく読ませて頂いている。どこかに常勤の職が見つければ一番よいのであろうが、現在の職が続けられる限りは、今後も奄美（しかも大和村）に住んでいるからこそできるおもしろい研究を続けてほしいと願ってやまない。

そのような著者の経歴（奄美で研究を初めてまだ10年余り）を反映し、本書のおよそ3分の1は奄美以外のタイやマダガスカルでのサンコウチョウ属鳥類の研究の話となっている。評者は海外調査にも興味があるので「一粒で二度おいしい」（本書「あとがき」）と楽しく読ませて頂いた。

（鹿児島大学理学部地球環境学科 相場慎一郎）



## 京都大学 生態学研究センター

Center for Ecological Research  
Kyoto University

京都大学生態学研究センター  
〒520-2113 滋賀県大津市平野2丁目509-3  
Tel:(077)549-8200 (代表), Fax:(077)549-8201  
センター長 中野伸一

Center for Ecological Research, Kyoto University  
2-509-3 Hirano, Otsu, Shiga,  
520-2113, Japan  
Home page : <http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp>

### 2018 (平成30) 年度 共同研究公募のお知らせ

京都大学生態学研究センターは、2010 (平成22) 年度から『生態学・生物多様性科学における共同利用・共同研究拠点』として活動してまいりました。センターでは生態学の基礎研究の推進と生態学関連の共同研究の推進を目的として、共同研究や研究集会・ワークショップなどの公募を毎年行っています。2018 (平成30) 年度の公募につきましては11月より開始の予定です。詳しくは、その時期のセンターホームページをご参照ください。

### 2017 年度開催の研究集会・ワークショップ

#### 『脱窒菌同位体比測定法ワークショップ2017』

開催日：2017年5月15日～5月17日 開催地：京都大学生態学研究センター  
問い合わせ先：木庭啓介 (京都大学生態学研究センター・教授) (E-mail: keikoba@ecology.kyoto-u.ac.jp) ※ 終了しました

#### 『若手研究者のための夏季観測プログラム in 琵琶湖』

開催日：2017年8月9日～8月15日 開催地：京都大学生態学研究センター、琵琶湖北湖  
問い合わせ先：中野伸一 (京都大学生態学研究センター・教授) (E-mail: nakano@ecology.kyoto-u.ac.jp) ※ 終了しました。

#### 『安定同位体生態学ワークショップ2017』

開催日：2017年9月9日～9月15日 開催地：京都大学生態学研究センター  
問い合わせ先：木庭啓介 (京都大学生態学研究センター・教授) (E-mail: keikoba@ecology.kyoto-u.ac.jp)

#### 『理論生態学の展望：生物多様性から生態系の持続的な管理まで』

開催日：2017年10月31日 開催地：京都大学理学研究科セミナーハウス  
問い合わせ先：谷内茂雄 (京都大学生態学研究センター・准教授) (E-mail: yachi@ecology.kyoto-u.ac.jp)

#### 『微生物群集機能を評価するためのエコプレートの統計解析講座』

開催日：2017年11月11日～11月12日 開催地：京都大学生態学研究センター  
問い合わせ先：三木 健 (国立台湾大学海洋研究所・准教授) (E-mail: tks.miki.ecology@gmail.com)

#### 『シアノバクテリアの生態学的多様性と系統分類』

開催日：2017年11月23日 開催地：京都大学理学研究科セミナーハウス  
問い合わせ先：花田 智 (首都大学東京大学院理工学研究科・教授) (E-mail: satohana@tmu.ac.jp)

#### 『2017 年度 勇魚会シンポジウム「海棲哺乳類の解剖研究死体は語る」』

開催日：2017年12月16日～12月17日 開催地：東京海洋大学品川キャンパス 楽水会館  
問い合わせ先：吉田弥生 (京都大学野生動物研究センター・研究員) (E-mail: m.yoshida841@gmail.com)





## ◆会費

会費は前納制で、学会の会計年度は1月から12月までです。  
新年度の会費は10月頃に請求をします。会費未納者に対しては6月、9月に再請求します。

退会する際は前年12月末までに退会届を会員業務窓口まで提出してください。  
会費を1年分滞納した会員には会誌の発送を停止し、2年分滞納した時は自動的に退会処分となります。

## 会員の区分と個人会員の権利・会費

会員種別	年会費*	大会発表	総会・委員 (選挙・被選挙権)
正会員(一般)	9500円	○	○
正会員(学生)	6500円	○	○
賛助会員	22000円	×	×

\*生態学会では収入の少ない一般会員のために、学会費・大会参加費を学生会員と同額にする措置を実施しています。  
詳細はウェブサイトをご覧ください。

### 【論文投稿の権利】

- ・日本生態学会誌 正会員のみ有
- ・保全生態学研究 正会員・保全誌定期購読者のみ有
- ・Ecological Research 投稿権利は会員に限定されません

### 【冊子配布を希望する会誌の追加費用】

- ・日本生態学会誌 600円
- ・Ecological Research 900円(2017年)、8000円(2018年)
- ・保全生態学研究 2000円\*\*

\*\*非会員の方の保全誌定期購読料は年額5000円です。なお、保全誌は発行後2年間、オンラインアクセスができません。

## 地区会費

正会員は、住所(所属機関か自宅のうち、郵送物の配布先となっているほう)により、地区会に参加することになっています。各地区会ではそれぞれ独自に地区会費を定めています。学会費の納入時には、これらも含めて請求しますので、あらかじめご了承ください。2018年より全ての地区会で地区会費は0円となります。

- ・北海道地区(200円):北海道
- ・東北地区(600円):青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県
- ・関東地区(400円\*):茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県
- ・中部地区(0円):長野県・新潟県・富山県・石川県・福井県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県
- ・近畿地区(400円):滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県
- ・中・四国地区(400円):鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県
- ・九州地区(700円):福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

\*ただし当面は徴収しない

問い合わせ先: 一般社団法人日本生態学会 会員業務窓口  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター  
E-mail: esj-post@bunken.co.jp  
Tel: 03-5937-2721 Fax: 03-3368-2822